

みみタロウ

にほんごばん 日本語版 ☆121号 2016年12月

しがけんこくさいいわゆるはらんていあぐるーぶ「みみタロウ」
滋賀県国際協会ボランティアグループ
おおつし はま ひあさおうみ
大津市におの浜1-1-20 ビアザ淡海2F
Tel/Fax : 077-523-5646
E-mail : mimitaro@s-i-a.or.jp
URL : <http://www.s-i-a.or.jp>
 : <https://www.facebook.com/siabiwako>

「かんちゃんの小さな家」

今回ののみみタロウは、子どもや若者の居場所「ホットフィールド」かんちゃんの小さな家(近江八幡市)を主宰する佐子完十郎さんと、ボランティアスタッフの廣川イヴィさんにお話をお聞きしました。



佐子さん 2年前、教職を退職後、かつどう以前からの社会福祉士としての活動を前進させ、「かんちゃんの小さな家」を自宅の一角に開きました。ここは、子どもや若者が、何か困ったことがあるとき訪ねていただく所。子どもたちのパートナーとして、サポートします。また、どなたにも参加していただける交流会、子どもたちの勉強サポート教室、相談の日も設けています。ぜひ、皆さんも気軽に立ち寄りください。<http://www.kantyankyouositu.com/>

わたしじしん　さい　とき　ぶらじる　かぞく　らいにち
私自身は10歳の時、ブラジルから家族で来日しました。
とうじ　ぶらじる　がつこう　ちがい　にほん
た。当時は、ブラジルの学校と違うことだらけの日本の
がつこう　せいぶんとまど　うわば
学校に随分戸惑いました。上履きをはいたり、かわいい
べんどう　も　まわ　ともだち　あ
お弁当を持ってきている周りの友達に「合わせなきや」
おも　せいいっぱい　まいにち　ことば　べんきょう
という思いで精一杯の毎日。言葉も勉強もわからないこ
ひっし　こくばん　うつ　いえ　そふば　おし
とだらけで、必死で黒板を写しては、家で祖父母に教
がんば
えてもらしながら「みんなについていかなきや」と頑張り
ひと　てんき　ちゅうがく　ねん　なつやす
ました。一つの転機になったのが、中学2年の夏休み
さくぶん　し　たいかい　にゅうよう　にほん
の作文が市の大会で入賞したことです。そうして、日本
ご　しゅうどう　げんご　まな　たの　し　こうこう
語を習得できることで言語を学ぶ楽しさを知り、高校で
えいご　だいがく　えいべいご　がっか　せんこう
は英語を、そして大学でも英米語学科を専攻しました。
こうこうじだい　がいくじんせいと　わたし　き
高校時代、外国人生徒の私を気にかけてくださったの
が佐子先生です。



いわく
「かんちゃんの小さ
いえ」
たぶん かこうりゅうかつどう つうやく
てつだ わたじじしん ちから
どお手伝いしながら、私自身も力
をもらっています。

そつぎょうご りょこうかいしや きんむ へ しやくしょ ほるとが
卒業後は旅行会社の勤務を経て、市役所でポルトガ
るご つうやく しごと はじ にほんしゃかい なか
レ語の通訳の仕事を始め、それまで日本社会の中で
育ってきた私にとって新しい世界への扉となりました。
こぶん ぶらじるじん ぶらじるじん さぼーと
自分はブラジル人なので、ブラジル人のサポートができる
あんい かんが しゃもしょく ほるとがるご
ると安易に考えて就職したのですが、ポルトガル語は
しんきょう なお ぶらじるじん はぐ
勉強直しさなければならないし、ブラジル人にハグされ
とまど にほんじん
て戸惑ったりするなど、すっかり日本人になっている
こぶん き しごと ひと さぼーと
自分に気づかされました。仕事では、人をサポートする
おも どうじ よろこ
二との重さと同時に、喜んでいただけることにやりがいも
いん わたし じんせい おお いみ ねんはん
感じ、私の人生にとって大きな意味をもった2年半でした
たくさん ぶらじるじん
た。そして沢山のブラジル人のおおらかさにふれていく
か じぶんじしん やわ な
中で、自分自身も柔らかくなり、無くしそうになっていた
あい でん いてい と もど おも
アイデンティティも取り戻せたように思います。

いま こくさいかんけい しごと
今は国際関係の仕事をしていますが、「かんちゃん
ちい いえ しごと たいけん じゅう はっそう
の小さな家」では、仕事では体験できない自由な発想
かつどう たの しごと
の活動を楽しんでいます。そして、これまでの仕事の
けいけん おお すば かたがた で あ
経験や多くの素晴らしい方々との出会いなど、すべて
むす じぶん かて すこ じぶん
が結びついて自分の糧となり、少しずつなりたい自分
ちか き わたし そだ
に近づいているような気がします。私を育ててくれた
しが ひと わたし せいかく みなもと
賀賀の人たちとつながっていくことが、私の成長の源。
がいくくじん ほんじん とも たの く ちいきづく やくだ
外国人も日本人も共に楽しく暮らせる地域作りに役立
てるよう、仕事も「かんちゃんの小さな家」の活動も頑張
しごと おも
っていきたいと思います。

は、日本人も外国人も年齢も関係なく、一緒に受け入れているところ。交流会もイベントではなく、普通の家で普通のおつきあいができるところです。卵焼きを作りながら、日本人のお母さんが外国人のお母さんに学校のことを教えてあげたり、また反対に、地元の人々が初めて外国人から母国料理を教わることもあります。なかなか人に言えないような悩みを抱えている人も、何か一緒にしながらなら、少しずつお話しできることも。最初、同じ国同士で固まっていても、一緒にご飯を作りながら自然と国籍に関係なく入り交じっているのを見ると、皆さん意味のある時を過ごされたのだなと嬉しくなります。外国人も日本人も、なかなか普段の場でふれあう機会は、ありそうでないもの。なかには「日本人の家は初めて」という方もいらっしゃいます。

ここ ひ う あ
心に引っかかっていることを打ち明けたり、「また
はなし おも ひと
ここでお話をしたいな」と思えるような、人とのつながり
がたくさんできるのが「かんちゃんの小さな家」。ありの
じぶん ころ かいほう いばしょ
ままの自分に心を解放できる「居場所」として、ぜひ
りょう おも いばしょ
利用していただきたいと思います。